

## 代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。今年は格別残暑が厳しい

ようですが、お元気にお過ごしでしょうか。

パラリンピックが開幕し、お一人お一人が、障害を受け入れ乗り越えてこられた思いに胸がいっぱいになりました。これからの季節朝夕冷え込んでまいりますのでお身体にお気をつけください。

## サンライズの物語

終戦からわずか74年——

平和について考える物語



その方は、戦時下、嫁と孫三人で錦糸町に住んでおり息子は軍隊に召集されたとの事。東京大空襲の時に嫁と孫を防空壕に入れ上から重しを載せたところ、余りのB29の爆音に防空壕の中から嫁が出してくれと蓋をドンドン叩くので出し、逃げたとの事。

空襲の中を逃げる時、B29が自分の真上で爆弾を投下した時は当たらないが前方で落とすと方向を変えながら逃げなければならなかったとの事。

そんな中三人で逃げ惑っていて、余りの暑さに川へ飛び込もうかとも思ったが、錦糸町公園に逃げ込んだとの事。錦糸町の駅が爆撃で燃え紙幣が公園の網に引っ掛かり揺れていたとの事。私が「お金を拾わなかったんですか」と聞くと「お金どころではなく嫁と孫に火傷を負わさないように、ヤツデの葉で火の粉を追い払うのに精一杯だった」と話されました。

次の日焼け野原になった自宅を目の前にし、愕然としたとの事。

防空壕の中や川に飛び込んで亡くなっている人達・・・食べる物も無く米屋の焼け跡にあった黒くなった米を拾い集め食べたとの事です。

その方が「戦争というのは人が人を殺すこと、二度と起こしてはならない」と言われておりました。

終戦から74年が経ち、戦争体験を次世代へ継承する事業が盛んに行われておりますが、原爆が投下され今も苦しんでいる方々がいるのが現実です。親やご利用者様からの戦争体験を、ゲームや映画の世界での戦争しか知らない次世代へ伝承していかねばならないと感じております。

お花紙でハイビスカスの花を作りました。背景の南国風看板と写真撮影してハワイ旅行に來たみたい？



レクの時間で輪投げをしました。輪投げに入ると“鈴くじ”が出来ます！

## NEWS 今月のニュース

### ドッグセラピーで高齢者に癒しを 齋藤さん（八戸）ボランティアで施設訪問

犬との触れ合いを通して認知症の高齢者らに癒やしを提供する「ドッグセラピー」に、ボランティアで取り組んでいる女性が八戸市にいる。同市の「ペットタクシーひまわり」の代表を務める齋藤ヒデ子さんは、25年以上にわたり市内の高齢者施設などで活動を続けてきた。齋藤さんは「犬との触れ合いが施設利用者さんの励みになれば」と思いを強くする。

ドッグセラピーは、犬と触れ合うことでストレスが軽減し、精神的な安定や活発性の向上などの効果があるとされる。精神疾患の治療や認知症のケアの場で活用されることもある。

ペット事業を手掛ける齋藤さんは約25年前、たまたまドッグセラピーに取り組む米国の病院を紹介するドキュメンタリー番組を目にした。

「病気と闘う子どもたちが犬と交流し、自然と笑顔になる姿に感銘を受けた」

自分にもできることがあるかもしれない。齋藤さんは居ても立ってもいられず、電話帳を片手に市内の高齢者施設に片っ端から連絡し、ドッグセラピーの活動をしたいと申し出た。同時に、自身の店舗に所属する犬や、利用客の飼い犬にも協力してもらい、「セラピードッグ」として活躍できるように訓練を行うなど、本格的に活動を始めた。

近年は八戸市内だけでなく三沢市やおいらせ町の福祉施設などにも活動の場を広げており、どの施設でも好評。

齋藤さんにドッグセラピーを依頼したことがある八戸市の介護老人保健施設「サンライフ豊寿苑」では、普段は会話や表情が少ない利用者自然と笑顔があふれ、中には以前飼っていた犬を思い出して涙ぐむ姿があったという。

利用者の80代男性は「人懐っこい犬で、触れていると気持ちが穏やかになった」と目を細める。施設担当

者も「利用者さんにとっても好評で、『また来てほしい』という人も多い」と話す。

昨年以降は新型コロナウイルスの影響で思うように活動ができていない齋藤さんだが、今後も要望があれば施設を訪問する意向。一方、活動するための人手が少ないことが悩みだといい、「協力してくれる人がもっと増えてくれたら」とドッグセラピーへの理解の輪が広がるよう願っている。



新型コロナウイルス感染症拡大以前に行われたセラピードッグとの交流イベント。利用者は犬と触れ合い自然と笑顔があふれていた＝八戸市

<デーリー東北 2021/8/26(木)>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>